

# 北條勇作著『経済学の一方向 —— 経済地理学の視点から ——』

(多賀出版, 1998年1月, p. 358)

佐 野 晋 一

著者は既に『シュムペーター経済学研究』(多賀出版, 1983年)や『経済地理学—経済立地論の観点から—』(多賀出版, 1985年)を著し, その他, シュムペーターの革新理論を基とした経済発展と景気循環に関連した分析や, 経済地理学分野における, 数多くの分析をされている。本書は, 著者によるこれまでの研究成果を統合化する試みであり, 「シュムペーターの動体理論」と「クリスタラーの中心地理論・レッシュの経済立地論」における空間的要素とを結合することによる「新経済地理学」の構築を意図したものであり, 経済学の進むべき一方向を示唆する意欲的な研究として特徴づけられよう。

著者によれば, シュムペーターの『理論経済学の本質と主要内容』における特徴の一つは, ワルラスの一般均衡理論を土台とした自らの静態理論の構築であり, 与件(人口, 資本, 生産方法, 生産組織および需要)の変化は, それが連続的かつ小刻みなものである限り静態論の領域に属するものであり, 経済主体が与件の変化に対して受動的である限り, 静態理論の枠組み内で対応できる, とした点にあるとしている。

シュムペーターの『経済発展の理論』については, ボエーム=バウエルクの迂回生産の概念に動態的要素を加味した「新結合」(生産要素の新しい結合, 新しい迂回生産方法の採用)という概念をシュムペーターが用い, 発展の要因を経済の内的要因である「新結合の遂行」(新商品, 新生産方法, 新市場, 新資源, 新組織)に求め, 新結合の遂行を自らの機能とし, かつその遂

行に当って能動的要素となるような経済主体を企業者として位置づけている点、これらが著者によってとりわけ重要視されている。

またシュムペーターの『景気循環論』においては、「新結合」の概念が更に精緻化され、「革新」（新生産関数の設定）の概念で置換され、創意心、先見の明、指導力、勇気、権威等といった能力において秀でた者として「企業者」が認識されておるとし、それらを基とした景気循環のプロセスを、著者は次のように特徴づけている。すなわち、銀行による信用創造は、発展を可能とする資本の供給という重要な役割を果たし、企業者利潤は革新（新機軸）を採用した際に、それが成功した場合に得られる類のものであり、非連続的な内的要因（革新の遂行）によって生じた発展は、企業者の群生、関連・非関連産業への革新の誘発、物価騰貴、購買力拡大、支払手段の創出、過大な予測、投機の行き過ぎという形で好況を惹起し、逆に、物価騰貴にともなう不安による投資の減退、新規企業の参入による利潤の低下、古い企業と新しい企業間の競争による倒産、銀行に対する負債返済のための支払手段圧迫、過大な予測とか投機の行き過ぎによる景気の深刻化、などの要因によって好況の継続は阻害され、景気後退局面がもたらされる、としている。その際、実際の経済体系は「均衡の近傍」にあるとされ、シュムペーター理論について著者は総合的・体系的な解釈を与えている。

以上の如く特徴づけられたシュムペーター理論に、空間的要因を統合すべしとする著者は、クリスタラーとレッシュの貢献を中心に分析を進めていく。著者によれば、クリスタラーの中心地理論において重要な概念は、「中心的な地点」「補完区域」「結節地域」などである。空間においてある地点が中心的であるとは、その地点がある機能の中心的な役割を果たしていると理解され、ある中心的な地点が一区域の中心点をなす場合、その区域は中心的な地点の「補完区域」とよばれ、中心地点と補完区域からなる地域概念は、「等質的な地域」の対比概念とされ、「結節地域」（商圈、都市圏、通勤圏、生活圏、文化圏など）として把握される。クリスタラー理論では、大きな結節地域の中に中小の結節地域が含まれ、さらに小さな結節地域等々が含まれるといった

形としての「階層的地域構造」の概念が、分析の中枢を占める。著者によればその分析を更に精緻なものし、空間における一般均衡理論として展開したのがレッシュの経済立地論であり、詳細な特徴づけが著者によりなされている。

著者の試みる「統合化」は、長期における中心地点の体系の領域や中心地点の変動（分布、数、規模）に関連したものであり、まさにシュムペーターのいう「革新（新機軸）の遂行」をその重要な要因であるとしている。新機軸の遂行によって引き起こされる中心地点の変動は、当初均衡の近傍にあった階層的地域構造に波及的な影響を与えることとなり、空間における新たな一般均衡に向けての変化を引き起こすとされる。著者は、いくつかの代表的な変革の遂行例に即して階層的地域構造が最終的にどのように影響されるかについて詳しく触れると同時に、著者自らの仮説である「商業新機軸」と「観光新機軸」をデモンストレートしている。

一般均衡分析、動態分析、および空間分析の統合を図ることによって著者は、「複雑系の経済学」とは異なるアプローチの仕方で、経済諸活動の空間的なダイナミズムについての新しい分析の枠組みを提示しており、それ自体高い評価に値しよう。また同時に、現実に行進している規制緩和や規制撤廃という制度的な変化は階層的地域構造にとっての与件の変化を意味するため、従来観察されてきた景気循環とは異なる様相が惹起されやすい含意をもち、したがって関連分野に重要な示唆を与えていることを忘れてはならないであろう。